

『子どもアドボカシー研究』執筆要項

1. 提出ファイルの形式と種類

Microsoft Word で読み取り可能な形式（電子ファイル）で作成し、電子メールで提出する。

2. 原稿の文字数

- 1) 各区分の原稿の文字数は次のように定める。英語原稿の場合、事務局に問い合わせること。
自由投稿論文：20,000 字以内、その他：10,000 字以内、VOICE：3,000 字以内、書評：3,000 字以内。その他については、各号で編集委員会が設定する。
- 2) 文字数は、見出し、本文、注、文献リスト、図表を合計したものとする。
- 3) 図表は、大きさに応じて、A4 判 1 頁大=1,800 文字、A4 判 1/2 頁大=900 文字、相当字数換算する。

3. 自由投稿論文の提出ファイル等

- 1) 匿名で査読を行うため、文献等の表記は、本人の著であっても「筆者」「拙著」などとせず、筆者名による表記とする。
- 2) 原稿の投稿時には、①～④をそれぞれ別の電子ファイルとして作成し、フィーストオーサーが提出する。①以外には、執筆者の氏名や所属は記載しないこと。
 - ① 投稿者情報：タイトル、原稿の区分、執筆者全員の氏名と所属（日本語・英語の両方）、連絡先メールアドレス
 - ② 表紙：投稿区分、表題（日本語と英語）、日本語の要約（400 字以内）とキーワード（3～5 語）、英語の要約（200 ワード以内）とキーワード（3～5 ワード）を記す。表紙は執筆文字数にはカウントしない。
 - ③ 本文：表題のあと、本文を開始する。図表は本文中に図 1、表 1 などと挿入箇所を記す。
 - ④ 図表：通し番号をつけた図表を 1 点 1 ページで記載する。

4. 自由投稿論文以外の提出ファイルなど

- 1) 原稿の冒頭に、①投稿区分、②執筆者全員の氏名と所属、③タイトル、を明記の上で本文を記す。
- 2) 図表がある場合には、上記 3 の 2) ③④を参照し、別ファイルとして作成する。

5. 書式や文体

- ・A4 横書き、本文は 10.5 ポイントで、1 頁は 40 字×40 字とする。各頁に通し番号をつける。
- ・章・節・項は、ⅠⅡⅢ...→(1)(2)(3)...→①②③...の順に区分し、見出しをつける。ただし、他の表記法（1., 1.1, 1.1.1 など）でも構わない。
- ・原則として「である調」の文体とし、句読点は「、」と「。」を採用する。
- ・年号は、原則として西暦を用いる。

6. 注

注は、本文中の該当箇所に、右肩上付きで、1)、 2)、 3)...と順に示し、注自体は本文の末尾

に一括して記載する。

7. 文献リスト

参考文献は、原稿の末尾に、著者名のアルファベット順で一括して記載する形を基本とする。書籍は、著者名・編者名、発行年（西暦）、書名、出版地（和書の場合は省略）、出版社の順に記載する。論文は、著者名、発行年、論文名、掲載誌名、巻、号（または、編者名、収録書名、出版社）、該当ページの順に記載する。欧文の書名、掲載誌名は、イタリック体（ないしは、アンダーラインを引く）とする。なお、WEBからの引用の際には、URLとともに引用日を掲載する。

文献挙示の方法については、各専門分野での慣例に従ってよいが、基本的には、日本社会学会編集委員会『社会学評論スタイルガイド 第3版』（日本社会学会ウェブサイト <https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>）に準じること（2022年8月20日現在）。

文献挙示の例を以下に示す。

堀正嗣, 2020, 『子どもアドボケイト養成講座—子どもの声を聴き権利を守るために』明石書店.

Oliver, Christine M. , Dalrymple, Jane eds., 2008, *Developing Advocacy for Children and Young People: Current Issues in Research, Policy and Practice*, London:Jessica Kingsley Publishers.